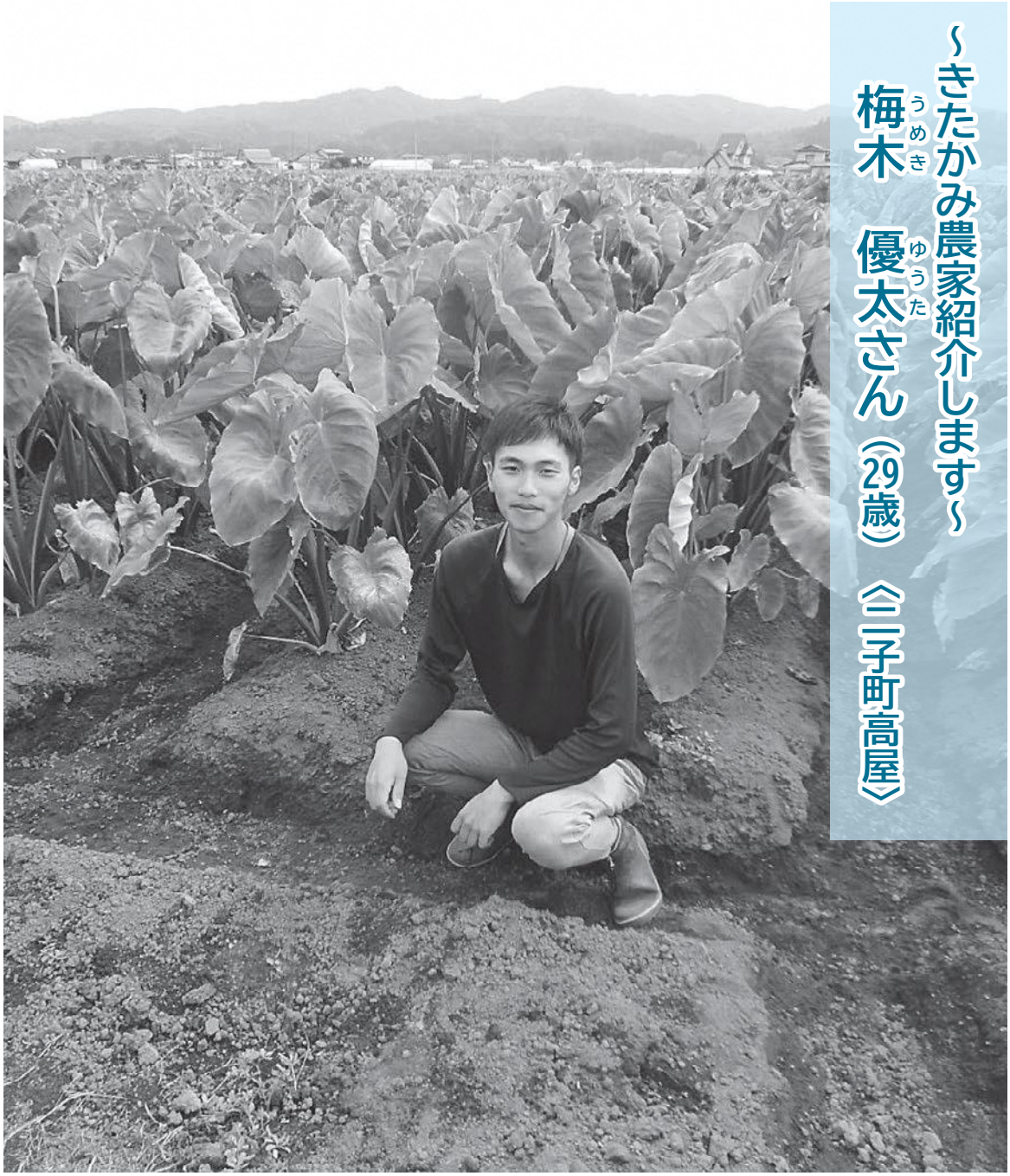
農業委員会だより

令和7年
9月号

◆農業や農業委員会に関することは地域の農業委員または農地利用最適化推進委員、農業委員会事務局へ気軽にご相談ください。

問い合わせ　北上市農業委員会事務局（本庁舎3階）☎72-8246、72-8247

～きたかみ農家紹介します～
梅木（うめき）　優太（ゆうた）さん（29歳）《二子町高屋》



今回ご紹介するきたかみ農家さんは、梅木優太さんです。高校卒業後、市内の農業法人に就職して農業全般を学び、退職後はアルバイトをしながら実家の農業を手伝っていました。小学生の頃から家業である農業に興味を持ち、後を継ぐため令和3年に親元就農の補助を受けて専業農家となりました。

現在は、家の畑で里いも30アールを作付けしています。また、営農組合からの委託を受け、水稲20ヘクタール、大豆4・5ヘクタールを作付けし、大豆栽培の機械オペレーターも請け負っています。今年は特に暑い日が続き、雨も少ないため管理が大変でしたが、父や先輩農家さんから教わりながら頑張っています。

将来は親から畑を引継いで、作付け面積を広げてもっと活躍したいと考えている梅木さん。そのためにいろいろな農業機械を駆使したいと、資格取得や作業技術の向上に努めています。わたしたち農業委員も、若い農家さんたちを様々な場面で応援していきたいです。

（農業委員　高橋　弘）

田植え体験に参加しました

6月7日、相去ふるさと再生会議と相去地区自治協議会が主催する「自然スクール」の田植え体験に、地域の小学一年生から六年生の14名が参加しました。

子どもたちは、裸足で田んぼに入り泥んこの感触に大さわぎ。中には全然入れずに、友達から「足を入れてしまえば大丈夫だよ」と励まされ恐る恐る足を入れる子や、尻もちをついて全身泥だらけで笑っている子も。苗の本数が多いと、育った時に風のとおりが悪く病気になりやすいと農家さんに教わった子どもたちは3～4本の苗で植えていました。五年生、六年生は曲がらず真っすぐに植えていて、下級生にもよく声をかけていました。

秋には鎌を使って稲刈り体験をします。自分たちで植えた苗が毎日食べているお米になるのが今から楽しみです。

子どもたちが農業体験を通して農業に少しでも関心を持ってくれたらうれしいです。

（農業委員　金田　康子）

田植え体験をする相去の子供たち

これから農業を始めたい方へ

農業における国の基本政策は、新規参入者や親元就農者の育成、兼業農家の維持に力を入れています。また、国や県の育成・補助事業のほか、北上市単独の補助事業があり、国や県の支援対象外でも受けられるものが各種あります。

親元就農、経営拡大の推進、機械共同利用の促進、先端技術の導入、重点振興作物強化、園芸産地拡大支援など様々な事業に補助金があり、農業を始めたい方向けの支援もしています。これから農業を始めたい方は市役所3階の農業振興課にご相談ください。また農地の貸し借りの相談も受けています。農地の賃借については農業委員会へご相談ください。

（農業委員　佐藤　清一）

農業者年金に加入しませんか？

農業者年金は、国民年金に上乗せする農家さんのための終身年金です。

加入を希望する人は、農業委員会事務局または最寄りのＪＡ各支店窓口にご相談ください。

詳しくはこちら↓